

こもれびの森 通信 4 月号

2019

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



2019年度の開館です!!



〈クラフトコーナー〉

昨年度末からのリニューアル工事により、外観のみならず、内部の照明設備やトイレ、テレビモニター、クラフトコーナーが整備されました。館内はLEDにより明るくなり、クラフトコーナーには机が増設されて、一度にたくさんの工作ができるようになりました。是非、ご来館の上、充実した科学館をご覧ください。

2019年度こもれびの森「ウッドランドクラブ」スケジュール

4月28日(日) 早春の自然観察と巣箱作りに挑戦	5月12日(日) 新緑の一桧山を歩きましょう	5月26日(日) 山野草観察とピザ作り	6月9日(日) カブト虫の飼育教室
7月21日(日) 川遊びと自然観察を楽しもう	8月4日(日) 川遊びと自然観察をしよう	9月29日(日) 初秋の自然観察とお茶会	10月13日(日) 秋を満喫する自然観察とピザ作り
10月27日(日) 紅葉の一桧山を歩きましょう	11月17日(日) クズの蔓(ツル)でかご編みに挑戦	・参加ご希望の方は電話でお申し込み下さい。 ・募集人数:各回30名程度 ・参加費:小学生以上600円	

こもれびの森のかわいいことりたち

“初春の小鳥たち”

①春、ミソサザイです。2羽でいることもあり、まもなく子育てです。

①ミソサザイ



②冬鳥のマヒワです。群れて飛ぶ様子は圧巻です。

②マヒワ



③コゲラがこぶしの実を食べています。

④シジュウカラが杉の実を食べています。冬をしのぐのに必死です。(大友)

③コゲラ



④シジュウカラ



ミツケ! こもれびの森

こもれびの森でみつけたよ

山のごとなら何でもプロ級、サポーターの④さんのコーナーです

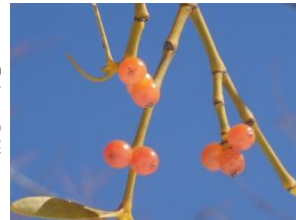
ネバナバ散布

今シーズンは雪が少なく山や森も歩きやすかった。葉っぱが落ちた森は見通しがきいて普段見られないヤドリギ(宿り木)もばっちり見える。ヤドリギの実は赤と黄があるというが、こもれびの森の実は黄色だけだ。実は粘着質でキレンジャクなどの鳥に食べられ、糸状の糞となって枝に貼りついて発芽する。ヤドリギがわざわざ寒い冬場に実を成らせるのは、鳥のエサとなって種をうまく拡散させるための戦略なのかもしれない。(は)

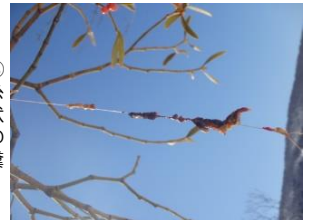
①ヤドリギ



②黄色の実



③糸状の糞



まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

見てなるほど?? ～「スイセン」(ヒガンバナ科)～

「スイセン」の原産地は地中海沿岸で、学名をナルシサス(Narcissus)といいます。地中海沿岸原産ということで、名の由来にはギリシャ神話がかかわっています。神話に登場するのは「ナルキソス」という名の美青年。自分の姿を見なければ、長生きできると神々から予言されたといいます。美青年ゆえ、たくさんの求愛があったものの、ことごとくはねつけたため、女神ネメシスの怒りをかい、泉に映った自分の姿に恋をしてしまった。どうにもならず憔悴しきって死に絶え、そして水辺に生える「スイセン」に生まれ変わったという・・・

さて、「ナルシズム(自己愛)」の語源は、このナルキソスですが、「スイセン」の花言葉もズバリ「自己愛」です。確かに「スイセン」の花が、下にうつむき加減に咲く様は、水面に自らの姿を映しているナルキソスそのものに見えてきます。

他にも地中海沿岸原産の「ヒアシンス」・「クロッカス」などの名もギリシャ神話に由来します。しかし、これらの美しい花が、いずれも女性ではなく美青年の名に由来するのには何となく納得できずにいます・・・(千葉)



〈スイセンの花〉

お願い

春の訪れとともに、「森林科学館」が開館しました。さて、当館では毎年、カブト虫についての話をしたり、子供たちが幼虫を持ち帰り育てるといったイベントをおこなっています。そのカブト虫の幼虫を探しています。つきましては、カブト虫の幼虫を提供できる方、また見つけた時は、是非、電話にて連絡いただければ幸いです。時期は、5月下旬までお願いしたいと思います。ご協力をお願いいたします。(連絡先 0228-56-2330)

〈宮城県こもれびの森「森林科学館」〉